



北海道博物館
第1期中期目標・計画期
外部評価報告書

令和2年3月

北海道立総合博物館協議会

はじめに

北海道博物館^{註)}（以下、博物館という。）は、平成27年度から北海道立総合博物館条例第20条の規定により、北海道立総合博物館協議会（以下、協議会という。）を設置した。

協議会は、知事の諮問を受けて評価作業部会を設置し、内部評価及び外部評価方法のあり方についての検討を進め、平成27年度第2回協議会で「北海道博物館の評価方法のあり方について」を答申した。答申では、北海道博物館第1期中期目標・計画期間（平成27～令和元年度）の中間年度にあたる平成29年度に、平成27～28年度の内部評価結果に対する中間外部評価を実施し、令和元年度には、平成27～30年度の内部評価結果に対する外部評価を実施することとした。また、協議会は、毎年実施する内部評価結果について、外部点検を行うこととした。

本報告書は、令和元年度第1回協議会において実施した、第1期中期目標・計画期間の外部評価結果を報告するものである。

外部評価（内部評価の外部点検を含む）を実施することにより、当館の内部評価の客観性・信頼性を高めるとともに、博物館運営の改善、道民サービスへの質の向上を目的としている。

外部点検や外部評価の結果は道民に広く公開し、当館の年度事業運営に反映させるとともに、第2期中期目標・計画の策定にあたり、事業運営等の質的向上に資するものである。

註) 北海道博物館とは、北海道立総合博物館条例の第3条で規定する三つの施設、(1)北海道博物館（以下「博物館」という。）、(2)北海道開拓の村（以下「開拓の村」という。）、(3)野幌森林公園自然ふれあい交流館（以下「ふれあい交流館」という。）のうち、(1)のことを指す。なお、博物館の施設及び設備の維持管理、「開拓の村」及び「ふれあい交流館」は指定管理者制度が導入されており、指定管理者に対する評価は知事が別に定める管理の目標に対する達成度を毎年度、把握・公表していることから、北海道博物館が行う内部評価の対象外としている。

目 次

1	第1期中期目標・計画期 外部評価の実施にあたって.....	1
2	第1期中期目標・計画期 外部評価結果.....	4
	(1) 総括評価	4
	(2) 個別評価	4
	① ② 総括評価番号1、2.....	4
	③ 総括評価番号3.....	6
	④ 総括評価番号4.....	7
	⑤ 総括評価番号5.....	9
	⑥ 総括評価番号6.....	10
	⑦ 総括評価番号7.....	11
	⑧ 総括評価番号8.....	12
	⑨ 総括評価番号9.....	14
	(3) 個別評価（総括表）.....	16

1 第1期中期目標・計画期 外部評価の実施にあたって

北海道立総合博物館協議会は、「北海道博物館外部評価実施要領」（平成28年3月23日決定）により、北海道博物館（以下「博物館」という。）の第1期中期目標・計画期間の最終年度にあたる令和元（2019）年度に、第1期中期目標・計画の達成状況に関する外部評価を実施した。

○ 評価の目的

博物館は、協議会並びに専門部会の外部評価を受けることで、博物館の内部評価の客観性・信頼性を高めるとともに、博物館運営の改善に役立て道民サービスの質を向上させる。

○ 評価の方法

評価は、「個別評価」と「総合評価」を実施した。「個別評価」は、博物館の第1期中期目標・計画期間の平成27年度から平成30年度の博物館内部評価結果に対し、博物館総括評価番号ごとに下記の①から⑤の項目に、内部評価結果や当該年度の事業実績等を点検・検証し、総合的な判断の上、評価を行った。「総括評価」は、個別評価の結果を踏まえ、博物館の事業実績全体について評価を行った。

【評価対象】

評価対象	内容
①内部評価結果	評点の妥当性を点検する
②内部評価方法	内部評価実施シートの構造、評点の根拠となるデータ収集方法の適切性を点検する。
③各年度の事業計画	社会的ニーズ、博物館の使命・目標、事業目的の間の整合性を点検する。
④目標管理体制	各部門及び個人の目標管理体制の現状を点検する。
⑤ガバナンス体制	博物館運営体制に対する道庁の支援体制の現状を点検する。

【外部評価の基準】

評価基準	判断の目安	
	取組の項目に関する事項 (右欄の項目以外の項目)	数値目標の項目に関する事項
S 上回って実施している	取組の結果、所期の成果等を上回ったとき	達成度が90%以上 (S、Aの評価は取組状況を勘案の上、判断する。)
A 十分に実施している	取組の結果、所期の成果等を得たとき	
B 十分に実施していない	取り組んではいるが、所期の成果等を得られなかったとき	達成度が90%未満 (B、Cの評価は取組状況を勘案の上、判断する。)
C 実施していない	取組が行われていないとき	

【北海道立総合博物館協議会 委員】

(第3期委員 任期：平成31年9月6日～令和3年9月5日)

氏名	職名等	適用
宇佐美暢子	株式会社二十一世紀総合研究所 顧問	
大原 昌宏	北海道大学総合博物館 副館長(教授)	会長
児島 恭子	札幌学院大学 教授	
佐々木史郎	国立アイヌ民族博物館設立準備室 主幹	
澤田 一憲	公益社団法人北海道アイヌ協会 理事、苫小牧アイヌ協会 会長(※令和2年1月22日をもって退任)	副会長
住吉 徳文	サッポロビール株式会社 北海道本部本部長付担当部長兼サッポロビール博物館長兼北海道戦略営業部	
湯浅万紀子	北海道大学総合博物館 副館長(教授)	

(50音順、敬称略)

(第2期委員 任期：平成29年9月6日～平成31年9月5日)

氏名	職名等	適用
宇佐美暢子	株式会社二十一世紀総合研究所 顧問	
大原 昌宏	北海道大学総合博物館 副館長(教授)	会長
児島 恭子	札幌学院大学 教授	
佐々木史郎	国立アイヌ民族博物館設立準備室 主幹	
澤田 一憲	公益社団法人北海道アイヌ協会 理事、苫小牧アイヌ協会 会長	副会長
竹垣 吉彦	イオン北海道株式会社 常務執行役員取締役管理本部長	
湯浅万紀子	北海道大学総合博物館 副館長(教授)	

(50音順、敬称略)

(第1期委員 任期：平成27年8月1日～平成29年7月31日)

氏名	所属および職名等	備考
宇佐美暢子	株式会社エフエム北海道 元代表取締役社長	
大原 昌宏	北海道大学総合博物館 副館長	
加藤 忠	公益社団法人北海道アイヌ協会 理事長	副会長
児島 恭子	札幌学院大学 教授	
佐々木 亨	北海道大学大学院文学研究科 教授	会長
竹垣 吉彦	イオン北海道株式会社 取締役兼執行役員管理本部長	
本田 優子	札幌大学 副学長	

(50音順、敬称略)

【北海道立総合博物館協議会 評価作業部会】

(任期：平成27年10月～平成28年3月)

氏名	所属および職名等
佐々木 亨	北海道大学大学院文学研究科 教授
大原 昌宏	北海道大学総合博物館 副館長
竹垣 吉彦	イオン北海道株式会社 取締役兼執行役員管理本部長
吉田 公伸	北海道博物館 副館長
北 敏文	北海道博物館 総務部長兼主幹
舟山 直治	北海道博物館 学芸部長
小川 正人	北海道博物館 アイヌ民族文化研究センター長兼研究部長
右代 啓視	北海道博物館 総務部企画グループ学芸主幹
会田 理人	北海道博物館 総務部企画グループ学芸主査
田村 雅史	北海道博物館 総務部企画グループ研究職員

(敬称略)

2 第1期中期目標・計画期 外部評価結果

(1) 総括評価

総括評価：A

【総評】

北海道博物館の基本となる活動、展示、調査研究、道内中核的機関の役割について、着実に改善、実施されている。中間外部評価の指摘もおおむね適切に対応されており順調に計画、目標を達成していると評価される。しかし、収蔵スペース、広報、道民との協働、ICT利用、ガバナンスについては、課題が残されており改善が望まれる。

【課題】

【1】道民との連携、協働する博物館づくりの進展速度が遅い課題がある。職員の業務内容見直し、意識改革をもって、プライオリティを高めた対応を進めていただきたい。

【2】道民の知的興味に答える博物館づくりにおいて、ICT利用の情報発信能力向上の対応を迅速にする課題がある。目標値の再検討により、道民のニーズに十分に答える対応を進めていただきたい。

【3】ガバナンスのステークホルダーの関係性記載が不明瞭なため、評価に困難が生じた。館内、館外（特に道庁）の責任所在と組織関係と問題点を整理し、より体系的なガバナンスの再定義を進めていただきたい。

(2) 個別評価

個別評価結果一覧

総括評価番号	1, 2	3	4	5	6	7	8	9
評価結果	A	A	B	A	B	A	A	B

- ① 総括評価番号1 「博物館活動の基盤となる、展示、調査研究等を推進させる措置」
② 総括評価番号2 「道民が特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とするための措置」

評価：A

【総評】

博物館の基本となる活動について、着実に改善、実施されている。中間外部評価の指摘も

おおむね適切に対応されており、目標数値が平成 30 年から明記されたこともあり、順調に計画、目標を達成していると評価される。資料収集、特別展、企画展においても特筆すべき成果があり、積極的な活動が見られた。しかし、収蔵スペース問題、ICT 活用への迅速な対応など課題もあり、それらを解消する戦略性のある将来設計が望まれる。

【個別意見】

○評価できる点

- ・博物館として基本的な機能は果たしている。
- ・4 年間で着実に展開されてきたと評価できる。
- ・全体的に見ると、収集活動、展示、調査研究いずれも順調に計画・目標を達成している。
- ・目標数値が平成 30 年度から明記されたことは積極性が見え、かつ目標が明確化されるため、高く評価できる。
- ・博物館活動の基盤である資料収集管理や展示については、年度が進むにしたがい、より順調に進められている。
- ・資料情報システムの全館的な運用の検討が進んだり、弥永コレクションの整理を経た展示や他館と連携した「ジオパークへ行こう！」(平成 28 年特別展)などの展示を開催したり、特筆すべき取り組みも多い。
- ・資料審査会や研究報告会の定例化、展示解説のスマートフォンアプリである「ポケット学芸員」継続的運用といった、定着してきた新たな取り組みもある。
- ・平成 30 年度の松浦武四郎展をはじめとする特別展やジオパーク展(平成 28 年特別展)、「生命のれきし」展(平成 30 年度巡回展)などの企画展の積極的開催により、利用者が増えているのはすばらしい。
- ・項目別番号 3(展示)について、多くの努力が報われる形で入館者増になっていると思われ、評価できる。
- ・クローズアップ展示も安定した活動で評価できる。
- ・博物館の基本となる活動について、着実に改善、実施されている。
- ・単年度目標について、平成 30 年度より具体的な定量目標数値が設定されている。今後も継続されたい。
- ・年度毎の計画の達成について職員で点検して課題を共有し、共通のビジョンを持って取り組む体制は好ましい。

○注視すべき点、改善を要する点

- ・企画立案や目標管理、ガバナンスについては、中間外部評価でも指摘されたが、引き続き改善の余地がある。戦略性をもって進めてほしい。
- ・資料数と収蔵スペースの問題など根本的な不安材料を解消する将来設計を読み取ることができず、長期的な大きな問題が孕んでいるように思える。この点は中間外部評価の総評で指摘された課題に対応がなされていない。
- ・平成 29 年度特別展のように、内容・体制ともに万全な用意をしながら、集客増につながらなかった展示について、もっと詳しい総括が必要だったのではないか。
- ・科研費の取得状況についても採択・不採択の分かれ目をもっと詳細に分析する方がよかった。
- ・デジタルを活用した資料の受け入れ工程の確立や災害発生を前提とした機能・体制整備、利用者の多様化(障がい者、外国人)に対する対応整備は今後の課題である。

- ・資料受け入れ工程のデジタルデータの整備、障がい者向けの展示、道民参加型での研究など、検討課題として残った取り組みもある。
- ・定着した取り組みについては、資料からはその目的が達成されたのか十分に読み取れなかった。総括評価番号3で言及されるのか。

○要望

- ・IPMの作業回数の数字が、どういう計算に基づくものかわからない。
- ・平成30年の胆振東部地震での対応を踏まえ、今後更なる体制を整えることが望まれる。
- ・北海道百年記念施設のあり方については、より具体的な議論が展開できるように、平成30年12月に策定された構想以降の検討に期待したい。
- ・道庁の支援体制は不明。

③ 総合評価番号3 「利用者の視点に立った博物館づくりへの措置」

評価：A

【総評】

評価項目に、教育、施設、広報の分野が含まれており、さらに多くの事業がそれらに関連することから、評価すべき項目が多岐に渡りすぎている。教育は多くの事業が活発に展開されており、高く評価されるが、回数のみならず質の評価まで深めるべきである。施設整備は現状の設備を有効に活用しており問題は特にみられず、評価される。広報については、今後も進展が見込める分野であり、課題も残されており、改善が望まれる。総じてA評価となったが、評価項目の細分により、より具体的な改善措置の提言が可能になると思われる。

【個別意見】

○評価できる点

- ・無料体験ゾーンである「はっけん広場」、子ども向け教材の開発、視覚障がい者対応の教材開発への着手など、努力を重ねている点は評価できる。
- ・学校団体向け学習プログラムである「はっけんプログラム」の活動は高く評価されるものである。
- ・多くのイベント実施件数があり、参加者も多く獲得できている。
- ・子ども向けイベント、教材開発、はっけん広場の充実は評価できる。
- ・赤れんが庁舎でのサテライト展示室である「赤れんがサテライト」の充実もガバナンス向上とも併せて評価できる。
- ・ステップを踏んで多様なプログラムを展開したり教材開発を続けている。

○注視すべき点、改善を要する点

- ・効果的なものは進める必要があるが、やる必要がないものはやめて、無駄なく効果的に進める方法を見つけるのがよい。
- ・博物館学系研修会への派遣については、表記されている数値の性格が毎年異なるため、評価がしがたい

が、平成 30 年度のみを見ても職員全体数に対して少ないように感じる。専門分野の学会も含まれている数だとすると、かなり少なく感じる。

- ・目標値の多くが、数値目標になっており、評価方法は優れている。しかし年度計画においては、進展度を測る基準や文言があまり見られない（例えば項目別番号 11、12）。
- ・ミュージアムエドゥケーターに関する取り組みが不十分なのにもかかわらず、評価が高かったり、バス停の移設、アメニティの設備の向上など利用者の利便性を図った施策をしているにもかかわらず評価が低かったりなど、一部に実情と合わない評価も見られた。
- ・赤れんがサテライトの活用を含め、広報戦略は課題が残る。ホームページの他に、今後、各種 SNS を利用した広報は、それぞれに特徴ある内容やトーンを分けて、継続して発信できる体制が整えていくことが好ましい。広報主担当の事務スタッフが配置されるのが望ましいが、叶わなければ、学芸員・事務職員全体で無理なく運用できる交代・分担の体制を検討してはどうか。
- ・アメニティ、オリジナルグッズ、施設の活用、「赤れんがサテライト」活用などの未達成項目については、緊急度は高くないものの、ソフトの充実（質）という視点から重要と思われる。日常の活動の中では優先的に取り組みづらい課題でもあるので、有期限のプロジェクトチームで取り組むなどの対策が必要ではないか。
- ・オーディエンスリサーチについては進まないまま来ている。来場者からの聞きとりという手法は考え直してもいいのではないか。
- ・担当職員の努力を示すその評価が、開催回数や参加者数、体験用教材の貸出件数、満足度といった数値でしか示されないのは惜しい。
- ・受け入れを開始した「初任段階教員研修」についても、受講者や所属学校の反応が知りたい。自由記述の意見があれば、整理した上で、補助資料として提示してはどうか。

○要望

- ・今後は道外への学校へのアプローチ、オーディエンスリサーチの本格実施などの課題を克服すべきだ。
- ・海外からの来館者への対応含め「利用者目標」をつきつめ、次期計画には目標を整理して進めてほしい。
- ・ここは評価対象となる項目（目標値番号）が多すぎる。
- ・ミュージアムエドゥケーター関連の研修で得た知識等の共有の仕組みの検討が進んだとのことであるが、平成 31 年度には具体的な記述がなされることを期待する。
- ・道庁の支援体制は不明。

④ 総括評価番号 4 「道民との連携、協働する博物館づくりへの措置」

評価：B

【総評】

「道民参加型の博物館づくりの推進」は、道民から期待があるにも関わらず、進展が遅く、他の社会教育機関に比べても劣る（例えば図書館の好例がある）。博物館のミッションに関わ

る根幹業務と思われるが、進展が遅い理由に、館内での意思共有の不十分さの懸念が指摘される。プライオリティを高くすべき業務であるが、実動する構造（例えばミュージアムパートナーのシステム）の構築までには達していないのは職員の業務内容見直しと意識の改革が必要かもしれない。評価システムが構築され課題として問題意識があることは評価されるが、館内での議論と業務推進へのより一層の努力が望まれる。

【個別意見】

○評価できる点

- ・評価システムが構築されたことは評価できる。
- ・評価体制が整い、PDCAを回すことができる体制ができたことは評価できる。

○注視すべき点、改善を要する点

- ・評価システムの実施方法については未成熟な面がある。なお一層の整理、深化が望まれる。
- ・道民参加型組織の導入については、図書室支援員の設置など、一部、形になったが、本格的な議論は残念ながら不十分。次期計画では、より具体化し、実施に際してはスピードアップが望まれる。
- ・「道民と連携・協働する博物館づくり」の大切さが浸透していない。次の中期計画ではぜひ実現してほしい。館内で根本的な議論をもう1回したほうがいい。これまでも同じような発言は協議会でしているが、それが反映されていないように思う。
- ・ミュージアムショップ、カフェについては、年度計画にも、達成状況にほとんど記載が無いように読めるが、改善の余地はないのであろうか。
- ・ミュージアム・パートナーについても、中間外部評価において重要性を指摘されながら、目立った進展が無い点は残念である。
- ・道民参加型の展示が継続し、新規にも開催されたことは大変よかったにもかかわらず、総括評価がBとなったのは連携・協働のあり方について、内部評価の記述ではわからないからである。
- ・全体的に「道民と連携」が進んでいない。
- ・利用者満足度は目標値を常に上回っているが、目標値（70%）そのものが妥当か、検討の余地がある。
- ・「ミュージアム・パートナー」（仮称）や「友の会」（仮称）の検討もプライオリティが相対的に低いためか、進んでいるとはいいいがたい。したがって、アンケート等の意見聴取はできているが、道民の意見を活かす仕組みが不十分で、組織化が進んでいないということでこのような評価（B）とした。
- ・評価を次年度の目標設定や予算に反映できるように、スケジュールの改善は今後の課題だと思われる。
- ・評価体制は試行段階を経て整いつつあるが、数値データの簡便な集約方法、質的データの提示方法など課題は依然として残った。

○要望

- ・「道民参加型組織の導入」など、結論が出ていない第1期中期計画の課題を反映した第2期中期計画の策定が期待される。
- ・総括評価3でも指摘したように、数値では示されない満足度に関連した自由記述を、整理した上で、補助資料として提示してはどうか。

- ・外部資金を獲得して実施した、北のミュージアム活性化実行委員会による市民参加・地域との協働に関する2つの事業の成果を精査し、平成31年度以降の具体的な活動として定着させていく取組みに期待したい。
- ・道庁の支援体制は不明。

⑤ 総括評価番号5 「北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献する措置」

評価：A

【総評】

北海道博物館協会を通じた全道の博物館への中核的役割、リーダーシップ、ICT を利用したネットワーク構築は非常に高く評価できる。特に台風、地震災害への対応は素晴らしかった。中間外部評価で指摘されていた研究面でのリーダーシップ、道外への発信拠点については、さらなる期待があることから、その役割を果たす機能面の充実を望みたい。そのためにも道庁や国の支援体制を取り付ける努力と説明に注力いただきたい。

【個別意見】

○評価できる点

- ・研究・研修の面で中核的役割を果たしている点は高く評価できる。
- ・年々、活動が充実してきており、発展・前進が見られる項目であり高く評価できる。
- ・年度が進むにしたがって、貢献度が高くなっていっているようで素晴らしい。
- ・北海道の中核的博物館としての機能は十分果たしていると評価できる。
- ・博物館ネットワークに関しては、特に北海道博物館協会の活動が、非常に活発である。北海道博物館の事務局としての貢献も大きく、特に災害（平成30年度台風21号・胆振東部地震）のときに、道博協加盟館の被害状況収集・報告が迅速にされ、非常にいいシステムができていると思う。さらにリーダーシップを強化して、北海道の博物館をリードしてほしい。
- ・被災関係の中核的役割の実施は高く評価できる。
- ・特に平成30年の台風21号と胆振東部地震に際しては、情報網のハブとして機能し、被害を受けた博物館の支援と復旧に大いに力を発揮した。そのあたりはもっと評価してよい。
- ・展示、調査研究面でも国立科学博物館、国立歴史民俗博物館、国立民族学博物館などの国立博物館との連携が保たれ、さらに、新しい国立アイヌ民族博物館とのネットワーク作りにも大いに貢献している。
- ・当初は厳しい評価を受けたが、まだまだ改善の余地はあるものの、現在では、北海道の中核的博物館として存在感を持ち、その役割を果たすようになったと評価する。
- ・北海道の中核的博物館として、研究・研修の面で十分に役割を果たしている。

○注視すべき点、改善を要する点

- ・他の博物館を牽引するリーダーシップにはやや欠ける。道外へのアピールもまだ足りず、地域活性化への貢献にはもの足りなさがある。

- ・平成 28 年度の北のミュージアム活性化実行委員会はその後どのように継続・発展させたのか不鮮明で、道の関与やガバナンスの充実も求められるところだ。
- ・件数だけではわからないところもあるので、評価方法としてはBとなった。

○要望

- ・ネットワーク事業で、他機関との関係から、年次計画で予測できないものが多く行われているように思われるが、それを受け入れる余裕を踏まえた体制を整えていただきたい。
- ・中間外部評価で指摘された、研究面での北海道の中核の役割（リーダーシップと道外へのアピール）も期待されている。次期中間計画では是非踏まえてほしい項目である。
- ・平成 30 年の胆振東部地震で果たした役割を鑑みて、今後も地域の博物館に貢献する役割を充実させることが望まれる。
- ・道庁の支援体制は不明。

⑥ 総括評価番号 6 「道民の知的興味に応える博物館づくりへの措置」

評価：B

【総評】

道立博物館の教育業務として最重要項目であり、着実に情報提供機能の充実が図られていることは評価できる。しかし、さらに発展できる分野であるにもかかわらず、ICT 利用の情報発信能力を向上させるためのワーキンググループ設置が見送られるなど、迅速な対応と積極性に欠けると評価された。評価においては、説明可能なように明確な目標値設定をしないと、検討に値しない報告とみなされ、評価審査も定性的にならざるを得ず、その結果、本項目はさらなる努力を望む評価となった。

【個別意見】

○評価できる点

- ・ジオパーク展（平成 28 年度特別展）などで見せた博物館連携・関係機関との連携はとてもよい。こうした試みはさらに発展させてほしい。
- ・ICT を活用した情報提供機能は充実してきている。
- ・自己評価にあるように、達成度は高いと評価する。自己評価は B とされているが、それは、目標とそれに対する取組み状況、課題がより明確になっているからか。しかし評価できるところは評価すべきと思う。
- ・SNS の運用の簡便化・活発化は評価できる。

○注視すべき点、改善を要する点

- ・情報発信力は、改善されてきてはいるものの、レファレンス機能の強化、広報の改善など依然、課題は多い。

- ・伸び代の多い分野であり、可能性も多いが、機器やシステムの回転も早いことから、常に最先端の方法を維持することはあまり意味がないかもしれない。しかしながら、ユーザーのニーズを把握し、対応する必要はあり、同規模の博物館や施設のソーシャルネットワークの設備との比較による評価も必要かと思われた。
- ・ICT ワーキングチームの設置が見送られたが、これは年度計画に記されていた点であるため、予算や人員獲得のためにも必要であったかもしれない。
- ・図書室支援員制度の創設は前進であるが、その効果はどれほどであったのか不明である。
- ・レファレンスについてはずっと課題になっているが、800 件という目標値はどこから来ているのか不明のままである。
- ・レファレンス対応が不十分で、件数が目標をはるかに下回っている。これは館員の記入奨励だけでなく、体制そのものを構築し直す必要があることを示している。大学共同利用機関のやり方を含め、参考とする事例を多く参照して検討することが求められる。
- ・「情報発信機能強化」については、今後専門の広報担当者は必要と思われる。レファレンスについても、当博物館にそのような機能があることをもっと広くアピールしてもよいと思う。
- ・順番にステップアップするような目標設定も必要だが、レファレンスについては目標の設定が低いようにも見える。
- ・レファレンス機能は、情報発信としても、博物館全体が持っている情報を道民にお返しする意味でも、とても重要で大切な機能である。もっと力を入れてほしい。
- ・「ネットワークを活かした情報発信力」は、まだ足りない。優先度をあげるべき。積極性も足りない。
- ・ICT ワーキングチームを設置せずに、そこで検討予定であった一部を次期情報システムに関する会議で扱うことになったとのことであるが、課題に関する今後の検討計画を包括的に示していただきたい。

⑦ 総括評価番号 7 「研究成果を活かし、北海道の豊かな未来の実現に向けた措置」

評価：A

【総評】

学芸員・研究職員の研究業績、人材育成、研修参加率、新規プログラムの数、刊行物の発行は、十分な成果があげられており、高く評価できる。「北海道 150 年事業」においても研究機関として中核的機能を果たした。評価対象の目標値や概念に不明確な部分があるので改善されたい。

【個別意見】

○評価できる点

- ・学芸員・研究職員の研究・研修への積極的参加が目立ってきた。
- ・さらに目標値を適切に定め、評価の客観性を保つ努力が必要だろう。次期計画では、より具体的な内容を盛りこむべきだ。
- ・実習、研修の受け入れ件数など十分と思われる。新しいプログラムも製作されているようで進展もある。
- ・学術刊行物も安定して発行されている。

- ・研究成果の発信については、全体的には高く評価できる。
- ・全体としては次世代の博物館要員の育成と研究を通じた社会貢献はよくできていて、高く評価できる。
- ・人材育成について積極的に取り組まれていることは評価される。
- ・研究機関としての役割も積極的に取り組んでいる。「北海道 150 年事業」への取り組みは、タイムリーなものであるものの評価できる。
- ・学芸員が優れた研究を遂行しており、その成果の発信が強化されたことが評価できる。
- ・「北海道 150 年事業」で道内の中核博物館としての役割を十分に果たし、関連した学芸員の研究成果の発信も活発であった。

○注視すべき点、改善を要する点

- ・「北海道の豊かな未来に貢献する」ものが何なのか、捉え難いので、アピールの方法の検討が必要。
- ・北海道 150 年事業の時期にあたっていたため、それとの関連で研究成果発信に関する実績数等が上方に引っ張られているところもあると思う。
- ・さまざまなプロジェクトが年度計画や達成状況の欄に書かれているが、内容が不明である。
- ・「②評価方法」という項目をB評価としたのは、評価のタイトルと内容が対応していないためである。
- ・平成 27 年度自己評価では「ヘビーユーザー」とされていた育成対象が平成 28 年度から「コアユーザー」と名称が変更されていて、それらが何を意味するのか、ことばの定義と意味範囲が不明確だった点も評価方法としては減点の対象となった。
- ・「外来研究員の受入」については、検討中とのことであるが、北海道博物館のリーダーとしての役割、人材育成の観点からも、体制の課題はあるにせよ、早期に実現されることを期待したい。

○要望

- ・北海道百年記念施設のあり方については、より具体的な議論が展開できるように、平成 30 年 12 月に策定された構想以降の検討に期待したい。

⑧ 総括評価番号 8 「アイヌ文化の振興に寄与すると共に多文化共生社会の実現に向けた措置」

評価：A

【総評】

展示の特色や強化、巡回展の実施、情報発信能力向上、調査研究はいずれも十分な成果と実施をしており高く評価できる。設定した目標値が厳しすぎるため、自己評価も厳しくなっていると評価された。無理のない目標設定とスケジュールを検討されたい。

【個別意見】

○評価できる点

- ・展示の強化、情報発信力は高まった。巡回展の実施や、わかりやすい利用者向け資料の作成など、「利用者目線」で事業を実施している点はすばらしい。

- ・北海道博物館の特色ある活動として高く評価できる。
- ・Bに近い印象を持ったが、調査研究、展示、イベントの実施、研究成果発信などが計画をほぼ達成していることから、総合的にはAと評価した。

○注視すべき点、改善を要する点

- ・全体としては、非常によくやっている。だが、研究成果の出し方や、集めた資料の整理の仕方などに、まだ不十分なところが見られる。
- ・「アイヌ文化の振興に関する寄与」は、非常に難しい課題であるため、非常に高い目標を設定し、なおかつ厳しく自己評価をしていることがわかる。だが、限られた時間のなかでの計画に少し無理があるようにも見える。理想・目標に対して、人的資源と時間、予算などと、合っているのか。
- ・年度ごとの計画で、適正な目標値を立てることが大切。(達成しやすい目標、という意味ではない)
- ・象徴空間との連携あるいは差別化という新しい課題について、きちんと考えてほしい。情報交換を密にしながら、相乗効果があがるように。
- ・進捗の遅いものについての理由は把握しているのかどうか、資料からは読み取れない。
- ・アイヌ文化関係の資料・情報の収集、整理、発信、公開にはまだ多くの問題があり、目標、計画の達成にはまだしばらく時間がかかりそうである。これらの事業については新しい国立博物館との協働、役割分担が必要となるかもしれない。
- ・アイヌ民族文化研究センターの取組みについては、項目数も多いが、各項目目標に対して総じて遅れ気味の評価である。白老の民族共生象徴空間開業との関連性を視野に入れて、今後の重要課題として取り組んでいくことを期待する。
- ・総括の自己評価がAであることから、それなりの取組みをしたという成果の実感があるのだろうと推測する。目標設定とそれに基づく具体的なアクションプラン（スケジュールとマイルストーン）の設計に無理があるのではないか。
- ・研究成果の提供、企画展や多様な教育普及活動での成果は見られるものの、未整理資料の整理、資料公開計画の策定など課題は多い。しかし、課題が明確に認識されているため、今後の活動展開に期待したい。

○要望

- ・今後は民族共生象徴空間との連携、あるいは差別化が課題となろう。十分議論し、運営していくべきだ。
- ・研究成果を展示として積極的に出して、アイヌ文化展示の刷新を常に図ってほしい。
- ・道庁の支援体制は不明。

⑨ 総括評価番号9 「各の措置を実施するために必要なガバナンス体制の確立に向けた措置」

評価：B

【総評】

ガバナンスは、「誰に向けて、誰が何を説明し、不足しているものを補うのか」という関係性を明確にすることが必要である。しかしガバナンス体制（組織の責任所在）が不透明であると、ガバナンスの修正点もわからない。「問題ごとに、どこが責任をもってやるのか」を明白にし、その組織作り、連携作りの再定義を進めていただきたい。特に館外の道庁との連携関係を明らかにしていただくと、他の評価項目で「道庁の支援体制は不明」と評価された部分も改善が見込まれる。また外部評価のあり方（協議会委員の立ち位置と諮問の関係）も再度検討が必要である。

【個別意見】

○評価できる点

- ・道庁からの支援体制が強化された。

○注視すべき点、改善を要する点

- ・ガバナンスの捉え方が具体的によく読めない。内部的にガバナンス体制について、どう思っているのか。再定義が必要だろう。
- ・ガバナンスを一括でまとめているため、よくわからなくなっている。「問題ごとに、どこが責任をもって、どういうことをやっているのか」や「誰に向けて、何が足りないのか」を書いていかないと、問題が指摘できない。
- ・組織としてのガバナンスに不透明さがあり、ガバナンス体制の完成にはまだまだ課題がある。
- ・評価制度のあり方そのものについても、基準の設定、項目の見直し、吟味などさまざまな改善が必要だ。
- ・ガバナンスの改善に関しては、平成 27、28 年度に進展が見られたように読めるが、その後は特に変化が読み取れない。
- ・項目別番号 25 は道庁との連携と支援体制についてだと思われるが、赤れんがでのサテライト展示や、開拓の村に関する記述となっており、他の部（例えば生物多様性を管轄する環境生活部や、文化財を管轄する北海道教育庁との連携や支援体制）との関わりについては、触れられておらず、意図する内容とは異なっている気がしている。
- ・博物館以外の道庁との関係が、前々から問題になっているが、環境生活部や文化財課などの連携などの「道庁との関係」は、ほとんど読み取れない。
- ・ガバナンス体制は進捗しているように見受けられる。しかし、北海道 150 年や 2020 年（国立アイヌ民族博物館開設）に向けての措置として（実績数が増加したために、目標を）実現している部分もあるのではないかと懸念される。
- ・項目別番号 25（道庁との連携）については、年度計画に具体性がない。
- ・計画、目標、達成状況、自己評価の各項目のつながり、関係性がわかりにくい。会議の回数は例示されているが、それが博物館やアイヌ民族文化研究センターの円滑な運営とどのようにかかわるのが見え

てこない。また、この項目で事業実績として書かれている赤れんがサテライトの活用促進や開拓の村の改修が、博物館の課題についての情報共有と解決にどのようにつながるのかもよくわからない。

- ・この項目では自己評価書の書き方の検討が必要である。
- ・実質的には平成 29 年度より計画を立てて取り組み始めているが、成果が良く見えず、未完であると評価した。
- ・北海道博物館としてのガバナンスについては、再定義が必要ではないだろうか。目指す成果が曖昧のように思える。また、具体的な項目と、それに対するアクションプラン（作業レベル）も作成されたら良いのではないか。

○要望

- ・公正性の観点から、協議会とは別の外部評価委員を設けることも議論する必要があるかもしれない。
- ・項目別番号 10（アイヌ民族文化研究センター）については、平成 29 年度が B で 30 年度が A とされる理由がわからない。（民族共生象徴空間開設に向けた「アイヌ文化情報発信事業」は本館とどう関連するのか？）
- ・館内の情報共有を実現できた運営会議について、更なる機能向上に関する課題が明確に認識されているため、今後の活動展開に期待したい。

(3) 個別評価結果

【総括評価番号1、2】

博物館 内部評価結果(総括評価)					
平成27年度		平成28年度		平成29年度	平成30年度
【1】 A	【2】 B	【1】 A	【2】 A	A	A

博物館項目別評価					
No.	H27	H28	H29	H30	目標(値)
1	A	A	A	A	・北海道博物館として必要なコレクションの受け入れ・登録(H27・H28・H29) ・未登録資料の整理・受入(H30)
2	A	B	A	A	・重要文化財公開承認施設としての資料保存環境の整備(H27・H28) ・公開承認施設としての資料保存環境の整備(H29・H30)
3	A	A	B	A	・総合展示の維持管理と資料の入替え
4	A	S	B	A	・総合博物館として様々な企画展を計画・実施
5	A	B	A	A	・総合博物館として幅広い研究プロジェクトの計画・実施
6	A	A	A	A	・科学研究費補助金等の公的機関等からの研究費の獲得
7	B	S	S	A	・旧北海中学校など、建造物整備・修繕計画の策定(H27) ・建造物の整備・修繕計画策定と整備・修繕の実施(H28・30) ・建造物の整備・修繕計画策定と整備・修繕の実施。また、Wi-Fi整備、トイレ洋式化の工事を実施(H29) ・「歴史文化施設におけるインバウンド交流施設整備事業」の実施(H29) ・建造物の内部展示の改修計画の策定(H28・H29・H30) ・百年記念施設のあり方検討(H28) ・北海道150年に向け「北海道百年記念施設のあり方検討報告書」を基に、開拓の村のあり方について検討(H29) ・北海道150年に向けた「北海道百年記念施設」のあり方検討(H30)

博物館協議会 外部評価				
評価	S	A	B	C
A	0	7	0	0

外部評価(個別結果)				
評点	S	A	B	C
①	0	7	0	0
②	0	7	0	0
③	0	7	0	0
④	0	6	1	0
⑤	0	4	3	0

【総括評価番号3】

博物館 内部評価結果(総括評価)			
平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
A	B	B	A

博物館項目別評価					
No.	H27	H28	H29	H30	目標(値)
8	A	A	S	A	・子ども向けの魅力あるイベントの充実
9	A	A	A	A	・子ども向けの教材の開発(H27・H28・H29) ・あらゆる利用者に対応した教材開発のあり方と活用方法の策定(H30)
10	A	A	B	A	・はっけんプログラムの運用(H27) ・利用者ニーズに適合させたはっけん広場の充実化(H28・H29) ・はっけん広場の利用者促進(H30)
11	B	B	A	A	・ミュージアムエデュケーターに関する取組(H27) ・ミュージアムエデュケーター機能の強化に関する取組(H28・H29・H30)
12	B	B	B	B	・アメニティ設備の設置 ・オリジナルグッズの販売 ・設備の活用(H27) ・施設の活用に向けた基準の策定(H28・H29・H30)
13	A	B	B	B	・バス停の移設(H27) ・交通案内の多言語化(H28) ・サインの仕様等の検討、土地所有者への協力依頼(H28) ・屋上開放の再開(H28) ・サインの仕様や設置費の確保、設置箇所等の検討、土地所有者への協力依頼(H29・H30)
14	A	A	A	A	・野幌森林公園内の利便性と満足度の向上
15	A	B	B	A	・広報活動の強化(H27) ・利用の促進に直接つながる戦略的な広報体制の強化・実践(H28・H29・H30)
16	B	B	A	B	・赤れんが庁舎の活用(H27) ・「北海道博物館赤れんがサテライト」の改善・充実化(H28) ・「北海道博物館赤れんがサテライト」の充実化(H29) ・「北海道博物館赤れんがサテライト」を活用した積極的な広報活動(H30)
17	A	A	B	A	・利用者調査を含む評価制度の方向性の打出し(H27) ・北海道立総合博物館協議会などの実施と運営(H28) ・内部評価の計画的実施(H28・H29・H30) ・オーディエンス・リサーチの実施(H28・H29) ・北海道立総合博物館協議会・専門部会の開催と運営、中間外部評価の実施と報告書作成(H29) ・北海道立総合博物館協議会(2回)と専門部会(1回)の運営と実施(H30) ・オーディエンス・リサーチの実施とその検討(H30) ・第2期中期目標・計画(平成32～36年度)の検討(H30)

博物館協議会 外部評価				
評価	S	A	B	C
A	0	5	2	0

外部評価(個別結果)				
評点	S	A	B	C
①	0	5	2	0
②	0	5	2	0
③	0	5	2	0
④	0	2	5	0
⑤	0	2	5	0

【総括評価番号4】

博物館 内部評価結果(総括評価)			
平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
A	B	B	B

博物館項目別評価					
No.	H27	H28	H29	H30	目標(値)
17	A	A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 利用者調査を含む評価制度の方向性の打出し(H27) 北海道立総合博物館協議会などの実施と運営(H28) 内部評価の計画的実施(H28・H29・H30) オーディエンス・リサーチの実施(H28・H29) 北海道立総合博物館協議会・専門部会の開催と運営、中間外部評価の実施と報告書作成(H29) 北海道立総合博物館協議会(2回)と専門部会(1回)の運営と実施(H30) オーディエンス・リサーチの実施とその検討(H30) 第2期中期目標・計画(平成32～36年度)の検討(H30)
18	A	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 道民参加型組織の創設と支援に向けた方向性の打出し(H27) 道民参加型組織の創設と支援に向けた方向性の確立(H28・H29・H30)

博物館協議会 外部評価				
評価	S	A	B	C
B	0	0	7	0

外部評価(個別結果)				
評点	S	A	B	C
①	0	0	7	0
②	0	3	4	0
③	0	2	5	0
④	0	0	7	0
⑤	0	0	7	0

【総括評価番号5】

博物館 内部評価結果(総括評価)			
平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
B	B	A	A

博物館項目別評価					
No.	H27	H28	H27	H28	目標(値)
19	A	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・連携及び交流の方針・計画案の作成(H27) ・外部組織・機関との連携・協力等を行うための方針の策定(H28) ・質の高い連携による、企業や民間団体、図書館、博物館、自治体等との連携・協力事業の実施(H29・H30)

博物館協議会 外部評価				
評価	S	A	B	C
A	0	7	0	0

外部評価(個別結果)				
評点	S	A	B	C
①	0	6	1	0
②	0	6	1	0
③	0	5	2	0
④	0	6	1	0
⑤	0	5	2	0

【総括評価番号6】

博物館 内部評価結果(総括評価)			
平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
B	B	B	B

博物館項目別評価					
No.	H27	H28	H29	H30	目標(値)
20	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室の活用の中長期プランの作成(H27) ・ソーシャルメディアの一層の活用(H28) ・レファレンスの流れの一元化(H28) ・図書室の蔵書の充実及び利用促進(H29・H30) ・レファレンスサービスの記録化及び活用(H29・H30)

博物館協議会 外部評価				
評価	S	A	B	C
B	0	1	6	0

外部評価(個別結果)				
評点	S	A	B	C
①	0	2	5	0
②	0	3	4	0
③	0	2	5	0
④	0	1	6	0
⑤	0	1	6	0

【総括評価番号7】

博物館 内部評価結果(総括評価)			
平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
B	A	A	A

博物館項目別評価					
No.	H27	H28	H29	H30	目標(値)
21	A	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研修・実習プログラムの開発(H27) ・博物館学芸員の後継者および博物館のコアユーザー育成(H28・H29・H30) ・博物館学系領域の充実化(H28・H29・H30)
22	S	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の対外貢献の促進(H27) ・研究成果の多様な発信(H28・H29・H30)
23	A	A	A	A	・道民・北海道への総合的な研究機関としての貢献に向けた体制作り

博物館協議会 外部評価				
評価	S	A	B	C
A	1	6	0	0

外部評価(個別結果)				
評点	S	A	B	C
①	1	6	0	0
②	0	6	1	0
③	0	7	0	0
④	1	5	1	0
⑤	0	6	1	0

【総括評価番号8】

博物館 内部評価結果(総括評価)			
平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
A	A	B	A

博物館項目別評価					
No.	H27	H28	H29	H30	目標(値)
1	B	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 総合展示の定期的な入替え(H27・28) クローズアップ展示の計画に沿った更新の円滑な実施と今年度の方針を踏まえた次年度以降の計画策定(H28) 「アイヌ文化Q&A」の定期的な入替え(H28) クローズアップ展示3、4の計画策定。計画には多様な分野・テーマを盛り込むよう留意(H29・H30) アイヌ文化Q&Aの定期的な追加・更新実施(H29・H30) 総合展示資料の入替え基準を定め、入替え計画策定(H29・H30)
2	B	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 企画展または巡回展の実施(H27) 企画テーマ展、蔵出し展の開催と次年度以降の計画の具体化(H28) 巡回展の実施と次年度以降の開催地の選定(H28) 第10回企画テーマ展の開催(H29) 第3回巡回展の開催(H29) 平成30年度以降の企画テーマ展、蔵出し展、巡回展等の開催計画の策定。特別展開催に関する検討(H29) 第4回巡回展の開催(H30) 平成31年度以降の企画テーマ展、巡回展等の開催計画の策定。特別展開催に関する検討(H30)
3	B	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 研究プロジェクトの実施(H27) 調査研究や研究内容を検討する時間の確保に努め、研究内容を充実させる(H28・H29・H30)
4	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 資料・情報の収集と整備(H27) 継続的かつ体系的に調査・収集を実施するため、組織的な整備・調査計画の作成に着手する(H28) 資料の整理・登録・配架規格の策定(H29・H30) 計画に基づく資料登録の実施(H29・H30) 新収蔵資料紹介の継続実施(H29・H30) 資料の所在調査等の継続実施(H29・H30)
5	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 公開資料の充実(H27) 未公開資料の公開と公開資料に関する情報提供の充実(H28) 資料群ごとの公開計画の策定(H29・H30) 計画に基づく新規公開の実施(H29・H30)
6	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 発信媒体強化に向けた方向性の打出し(H27) 整理・公開計画の策定に基づきデータベース化を着手する(H28) ホームページアクセス10,000以上(H28) ウェブサイト(ホームページ)の更新計画の策定(H29・H30) 「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の掲載資料・コンテンツの追加(H29・H30)
7	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 統合後の支援態勢の整備(H27) 認知度を上げるため、ホームページ等での新たな情報を掲載する(H28) ホームページ等での情報発信の再開(H29・H30) レファレンス記録票の集約・報告時期の定例化(H30)
8	A	A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> アイヌ文化関連のイベントの実施と改良(H27) アイヌ文化関連のイベントの段階的な増加と改良(H28) アイヌ文化に関する普及事業の効果的な実施体制(H29・H30)
9	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な発信と協働の推進(H27) 研究紀要等を通して研究成果を積極的に発信し、その内容を充実させる(H28) 研究紀要、企画テーマ展等を通して研究成果を積極的に発信し、その内容を充実させる(H29・H30)

博物館協議会 外部評価				
評価	S	A	B	C
A	0	5	2	0

外部評価(個別結果)				
評点	S	A	B	C
①	0	3	4	0
②	1	6	0	0
③	1	5	1	0
④	0	4	3	0
⑤	0	5	2	0

【総括評価番号9】

博物館 内部評価結果(総括評価)			
平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
A	B	B	A

博物館項目別評価					
No.	H27	H28	H29	H30	目標(値)
24	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各部のグループ業務に関する課題の共有と解決(H27) ・課題の共有と解決(H28・H29・H30)
10 アイヌ研	B	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・館における研究センターの運営(H27) ・研究センター会議(副館長・センター長・非常勤職員の会議/職員全体の会議/主幹・主査の会議)の定例化(H28) ・研究センター会議(副館長・センター長・非常勤職員の会議/職員全体の会議等)の定例化(H29・H30)
25	A	A	A	A	・課題の共有と解決

博物館協議会 外部評価				
評価	S	A	B	C
B	0	1	6	0

外部評価(個別結果)				
評点	S	A	B	C
①	0	2	5	0
②	0	2	5	0
③	0	3	4	0
④	0	3	4	0
⑤	0	1	6	0

